

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
22	鳥居 育世（1）	<p>1. 富士市におけるヤングケアラー支援について</p> <p>コロナ禍において、困っていても見えにくかった問題や課題が浮き彫りになってきています。特に、独り親家庭の困窮や、子供の貧困、虐待やDVなど家庭で抱えこんでいた問題が抱え切れなくなり、噴出しています。その中の1つである幼き介護者、ヤングケアラーです。家庭で両親や祖父母、兄弟など、ケアが必要な家族の介護を担ったり、家事や兄弟の世話を担っている18歳未満の子供たちの責任の大きさに光が当たってきたところです。いろいろなマスメディアに特集が生まれ、実態が少しずつ見えてきました。やっとな国の全国調査も、昨年度実施され結果が報告されました。対象は公立の中学校1000校と全日制の高校350校を抽出して、2年生にインターネットアンケートを実施し1万3000人の回答が得られました。富士市でも2校の中学校が対象になり、その調査結果では、世話をしている家族がいると回答した中学生は5.7%でおおよそ17人に1人、高校生では4.1%でおおよそ24人に1人という結果でした。その中でも平均三、四時間をケアの時間に費やし、1日に7時間以上のケアをしている生徒が1割もいるとの結果に深刻さを感じます。</p> <p>子供の学ぶ権利や、遊ぶ権利、自由に進路や就職先を選択する権利を奪う結果につながっているケースも少なくありません。また、このヤングケアラーは、見ようとしないと見えない存在、見ようとしても見えにくい存在と言われていました。核家族化や地域とのつながりの希薄化、閉鎖的になりがちな現代の家庭環境、子育てや介護の男女共同参画が進まないことが、子供たちへの負担をより増やしています。</p> <p>以上のことから今後、必要性の増すヤングケアラーの支援について、以下質問いたします。</p> <p>(1) ヤングケアラーの学校の対応について</p> <p>① ヤングケアラーの実態が分かるような調査の実施予定はあるのでしょうか。</p> <p>② 小中学校及び市立高校において、気づける人を増やすために、教職員への研修実施の予定はあるのでしょうか。</p> <p>③ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、養護教諭、担任教諭など相談を受ける機会の多い職員の情報共有や対応の検討などはどのように行われているのでしょうか。</p> <p>④ ヤングケアラーの存在を子供たちにも知ってもらうような授業や講座の開催の検討はあるのでしょうか。</p> <p>(2) 学校だけでなく、ヤングケアラー当事者が気軽に相談できる窓口はどのようになっているのでしょうか。</p> <p>また、相談された内容は、いろいろな職種、担当課が関わるケースが多いと思いますが、課を超えて連携できるサポート体制はどのようになっているのでしょうか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長